

## 令和3年度 東京都立白鷗高等学校及び附属中学校経営報告

校長 宮田 明子

令和3年度も、コロナ禍において時差登校は通年実施、分散登校も適宜取り入れながらオンライン授業と対面授業の併用を余儀なくされた。しかしながら、こうした環境下でも、生徒も教職員も感染対策を徹底しながら教育活動の継続に取り組み1年間を終えることが出来たことは、本校の底力が十分に発揮された証左である。

そんななか残念だった点は、昨年度から引き続き一切の宿泊行事が実施できなかったこと、及び対面による国際交流をほぼすべて行うことが出来なかったことである。これらの事業は本校の国際教育の根幹を成すものであり、2年間にわたってこれらの取組が実施できなかったことは痛恨の極みである。それでも、今年度もオーストラリアの提携校とオンライン交流を実施し、WWL事業の一環として Diversity Café をオンライン実施するなど、様々な工夫を行った。このようななか、年度末ぎりぎりの時期になって次世代リーダー育成道場のオーストラリアへの留学が再開され、本校からも3人がオーストラリアへ旅立つこととなったことが、令和4年度に向けた大きな光となった。是非とも次年度には、対面による国際交流が実施できる環境になることを期待したい。

本年度が最終指定年度となる予定であった文部科学省のWWL（ワールドワイドラーニング）コンソーシアム構築支援事業については令和4年度まで継続指定となった。しかし、従来から予定していた指定期間3年間のまとめとして、11月に全校生徒、全教員参加のもとで報告会を実施した。この事業については、今年度までの3年間の取組を一区切りとして、令和4年度は指導内容も改善し、新たな取組も加えながら、さらにより良いものにすべく全校で事業を推進していく予定である。

今年度は、宿泊行事や国際交流以外の学校行事も、ほぼすべて変則的な実施形態とせざるを得なかった。体育祭、文化祭は学年ごとの実施とし、合唱祭は中止した。それでも、体育祭と文化祭が実施できたことは、次年度への生徒のノウハウの継承という意味で昨年度よりも前進したと言える。

生徒の進学指導、進路決定という点においては、授業がオンラインに切り替わったり、講習をオンラインにせざるを得なかったりという厳しい環境であった。また生徒達も感染に気を付けながら受験勉強を進めることとなり、すべてコロナとの闘いのなかでの指導が続いたが、このようななかでも一定の結果を残せたことは、何よりも生徒の努力の賜であり、教職員の工夫もその礎となっている。学校としての取組で今年度足りなかった部分について検討を加え、次年度に活かしていきたい。

**今年度の重点的取組と数値目標の結果** ※斜字箇所は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、感染拡大以前の年度（平成31年度）とは比較できないが、経年変化を見る意味で継続記載している。評価欄については、学校運営連絡協議会の評価委員会による学校評価に基づくことが可能な分野については加味しているが、新型コロナウイルス感染の影響により取組自体が中止されるなど評価対象がない場合や、正確な数値が測れない場合は、「－」としてある。

| 項目        | 内容   | 実績  | 評価 |
|-----------|--|---|----|
| ア<br>学習指導 | ① 全教諭が年4回以上の授業見学を実施し、教科指導力の向上を図る。                                      | 授業を担当する教員68名のうち39名が年4回以上の授業見学実施。  | B  |
|           | ② 予備校等主催の授業力向上セミナーに若手教員を参加させ、教科に還元する。                                  | 校内予算で14名の若手教員が、のべ16講座に参加し、教科会で還元した。   | A  |
|           | ③ 生徒による授業評価および生徒実態調査を実施し、これらの結果分析を授業に反映させて授業改善に取り組むとともに、次年度の教科目標を策定する。 | 生徒による授業評価の平均値は、昨年度同様に高い満足度を維持しているが、評価のバラつきがやや大きくなったため、多様な生徒に対応できる指導の工夫が必要である。 | A  |
|           | ④ 授業改善、授業力向上に関する校内研修会の実施   | 8月31日に授業力向上研修、11月12日に、ICT活用に関する授業研究実施。  | A  |
|           | ⑤ ICTやBYODの活用による授業の工夫とその効果検証の実施  | 11月12日に、Society 5.0に向けて、公開授業を実施した。PC委員会によるTEAMS研修も全7回実施。                      | A  |
|           | ⑥ 中学校段階での自宅学習時間の確保とその把握  | 分散登校による変則的な自宅滞在時間の日が多く、経年比較できる数値はとれなかった。                                      | －  |
|           | ⑦ 小テストや課題の量、頻度等についてその効果を検証し、教科としての指導力向上に資する。                           | 各教科・科目での検討に留まっており、学校全体として共有、指導改善に活かすことは出来ておらず、次年度の課題である。                      | C  |

|               |   |   |  |   |
|---------------|---|---|--|---|
| ア<br>学習指導     | ⑧ | 年間実施計画に基づく組織的な英語、漢字、数学などの検定受検。  | 漢字検定の組織的受検は次年度の課題。   | B |
|               | ⑨ | 外部機関主催の講演会やコンクール等への参加、本校への大学教授の招聘等による理数教育への生徒の興味・関心の喚起と指導の充実を図る。  | 数学オリンピック、科学の甲子園等に参加するとともに、WWL事業の一環として東京大学先端研究所との連携事業で理数分野の研究を深めた生徒も出た。大学教授の招聘は、コロナ禍で実施できなかった。次年度は「理数研究校」の指定を受け、理数分野への生徒の興味・関心を深める取組をさらに推進する。 | A |
|               | ⑩ | 探究活動に全校体制で取り組み、生徒の主体的な学びを支援する。  | 高校2年の論文、高校3年の英語論文執筆をはじめ、各学年の探究活動に全校体制で取り組んだ。   | A |
|               | ⑪ | 英語教育推進校としての英語教育の一層の充実を図る。   | 4技能を伸ばす指導を推進するとともに、難関大学合格に必要な知識量と読解力の向上にも成果を上げた。   | A |
| イ<br>進路指導     | ① | 5教科による勉強合宿（5学年対象）を夏季休業中に実施し、学力伸長と大学受験に向けた意識啓発を図る。コロナ禍で中止の場合は、代替行事を実施する。                                     | コロナ禍で勉強「合宿」は中止、東校舎での通いの講習となったが、朝から夜まで勉強漬けの日々を設定し、生徒への効果は大いにあった。  | A |
|               | ② | 高校では模擬試験、中学では学力推移調査を計画的に受験させ、その結果の生徒へのフィードバックを、学年集会等の機会を活用して進路指導部から行う。もって、学年による進路指導の差を極力なくし、組織的な指導の実施につなげる。 | 模擬試験、学力推移調査の生徒へのフィードバックは概ね実施できた。これらが結果的に、生徒の次なる学力向上につながっているのか確認していく手段と時期を検討する。   | B |
|               | ③ | 印刷物、保護者会、学習支援システム等、あらゆる媒体と機会を捉え、進路情報の発信を行う。   | 保護者会はオンラインを活用しながら、進路情報の発信に努めた。学習支援システムは大いに活用した。  | A |
|               | ④ | <b>長期休業中の補講・補習の参加者、高校延べ8,000人以上。<br/>中学延べ4,000人以上。<br/>※コロナ禍が続く場合は参考値。</b>                                  | 感染拡大防止に努めながらの実施のため、あくまでも参考値。<br>高校：8,758名<br>中学：2,991名   | B |
|               | ⑤ | 卒業生を含む学年検討会、模擬試験分析会、共通テスト検討会等を4回以上実施し、全教職員が生徒の学力の現状を把握して教科指導に生かすとともに、生徒一人一人に即した指導内容の共有化を図る。                 | 全教職員が把握したといえるまでには至らなかった。次年度の課題として取り組む。   | C |
|               | ⑥ | チューターの活用とともに自習室の有効活用を図る。  | 高校3年については担任団の全面的協力により自習室を大いに活用することが出来た。チューターは、感染拡大に細心の注意を払いながら、最大限活用した。  | A |
| ウ<br>生活指導・部活動 | ① | 挨拶の励行と時間厳守等、基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成を図る。   | 自ら進んで挨拶ができ、その声がもう少し大きいとなお良いが、概ね成果をあげている。   | B |
|               | ② | コロナ禍における行事の実現に向けた工夫と実施、その検証を通して、困難に負けずに行事を成し遂げる強さを育成するとともに、次年度に向けた引き継ぎを確実にを行う。                              | 体育祭、文化祭ともに学年単位での実施とならざるを得なかったが、教職員もよく工夫し、生徒もそれに応えて頑張った。合唱コンクールの適切な実施が次年度の大きな課題。  | A |
|               | ③ | 自主的・自律的な生徒会、委員会活動とその活性化を図る。   | 分散登校・オンライン授業の影響を大きく受けたが、生徒は主体的に活動した。   | A |

|                           |   |   |   |   |
|---------------------------|---|---|---|---|
| ウ<br>生活指導・<br>部活動         | ④ | 部活動への加入率を上げ、その活性化を図るとともに、中学・高校ともに、都大会等以上の大会出場に3団体以上を目指す。                          | 部活動加入率の数値を、昨年度までののべ人数から実質加入率に変更したが、昨年度並みを維持出来た。5団体（サッカー部、吹奏楽部、かるた部、和太鼓部、剣道部）が都大会相当以上の大会に出場。 | A |
|                           | ⑤ | <b>年間皆勤者数、学年平均60名以上。</b>  | 平均65名   | — |
|                           | ⑥ | いじめの実態把握アンケートを3回行い、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に資する。  | いじめのアンケート3回実施。いじめ案件はなかった。   | A |
| エ<br>国際教育<br>探究活動<br>地域連携 | ① | 中学3年時の海外研修旅行、高校生のシンガポール修学旅行（本年度は既に国内に目的地変更）、オーストラリア研修旅行等を改善実施し、海外交流事業の活性化を図る。     | 海外への渡航はすべて中止。東京都による留学生受入も事業自体中止。唯一、フランス姉妹校の生徒が夏に来日して交流。また、オンライン交流が進んだことが成果。                 | — |
|                           | ② | 国際社会で活躍する人材を育成するために次世代リーダー育成事業等を積極的に活用して留学の推進を図る。                                 | 次世代リーダー育成道場には計12名が合格。初の2桁台の合格者数となった。  | A |
|                           | ③ | フランスの姉妹校と交流を開始し、本校生徒の派遣とともに、留学生の受け入れを積極的に行う。                                      | フランスへの渡航は中止。本校生徒の派遣は次年度へ。先方校からの生徒受け入れは3名実施できた。  | — |
|                           | ④ | 日本の伝統と文化の理解教育を地域研究に発展させて、「上野・浅草学」の充実を図るとともに、防災教育で地域との連携を強化・充実させる。                 | 地域の伝統行事はすべて中止され、参加は出来なかった。代わりに、地域の方々を招いたポスター発表実施。防災講話も地域の方の講演を実施した。                         | A |
|                           | ⑤ | オリンピック・パラリンピック教育の充実を図る。   | パラスポーツの種目を体育の授業やスポーツ大会で取り入れた。   | A |
| オ<br>健康づくりの<br>推進         | ① | 生徒の新型コロナウイルス感染防止の徹底を図るとともに、生徒自らの感染予防の意識醸成を図る。                                     | 分散登校とオンライン授業の活用により、校内の教育活動を起因とする感染拡大はほぼゼロに抑えられた。生徒も黙食を徹底するなど、感染予防への意識醸成を図ることができた。           | A |
|                           | ② | スクールカウンセラー及び特別支援教育コーディネーターを中心に、教育相談委員会を通じた生徒状況の把握とその対処法を全教職員で共有し、特別支援教育に積極的に取り組む。 | 特別支援教育コーディネーターを年度当初に正式に委嘱し、スクールカウンセラーも含めた教育相談委員会を組織的に運用し、特別支援教育を活性化した。                      | A |
|                           | ③ | 生徒の基礎体力の向上と、健康、安全、環境、食育等に対する生徒の意識向上に組織的に取り組む。                                     | もっと運動したいという生徒は多いものの、体力テストでは東京都及び全国平均を下回る項目が多い。次年度の課題とする。食育については、食育推進チームを委嘱し、組織的に取り組む体制を固めた。 | B |
| カ<br>募集広報<br>活動           | ① | オンラインツールを活用した募集・広報活動を積極的に展開する。  | 緊急事態宣言、及びまん延防止等重点措置適用期間は、オンラインツールを有効活用して感染防止と広報活動を推進した。                                     | A |
|                           | ② | 高校入学生、中学入学生、それぞれが備えてほしい資質を明確化した広報活動を実施する。   | 中学入学生、高校入学生という対象に即した別々のパワーポイントを再作成し、広報活動を展開した。  | B |
|                           | ③ | 高校の伝統と取組を前面に打ち出して、高校入学生の志願倍率を維持する。  | 最後の高校入試に向けて募集対策に全校体制で取り組んだ結果、1.71倍の高倍率となった。   | A |
|                           | ④ | ホームページの充実を図り、150回以上の更新を行う。  | 更新回数157回/年  | A |

|           |   |   |  |   |
|-----------|---|---|--|---|
| キ<br>学校運営 | ① | 分掌及び学年、教科での年間目標と年度末の検証を実施する。  | 各分掌等に任せた状態になり、組織的な検証は出来なかった。                               | C |
|           | ② | 学年中心主義を改め、各分掌、教科会における中高の情報交換の促進と統一した指導体制を構築する。                      | 校舎が2ヶ所に分かれるハンディを越え、中高合同の分掌部会を可能な限り行うなど、各分掌・教科で意識の改善が見られた。  | A |
|           | ③ | WWLコンソーシアム構築支援事業の指定最終年度として、発表とまとめを行い、その成果検証を実施するとともに、次年度への継続体制を整える。 | 11月20日(土)に生徒、教員ともに全員体制で報告会を実施した。次年度まで継続指定となった。             | A |
|           | ④ | 経営企画室との緊密な連携を図り、入学選抜業務の適正実施を目指す。                                    | コロナ禍で、前例のない「特例による検査」の実施も含めて、全6回の入試を無事故で乗り切った。              | A |
|           | ⑤ | 予算編成・執行、施設管理、学事業務、窓口業務等の適正実施をさらに遂行する。                               | 会計処理に1件ミスが出たが即座に是正し、それ以外は良好かつ適正に業務遂行できた。                   | B |
|           | ⑥ | 東校舎改築に向けて校内体制を整備し、重点課題の把握と改善を図る。                                    | 校内体制は整えたが、建築計画自体に予期せぬ変更により次々変更があり、学校として組織的に動くのは難しかった。      | B |
|           | ⑦ | I C T機器の活用による校務効率化と業務縮減に取り組み、ライフ・ワーク・バランスを推進する。                     | I C T機器は学校として最大限活用出来た。特定の教員に過重な負担がかからない体制の構築が次年度に向けた課題である。 | A |
|           | ⑧ | 全教職員が公務員であることの自覚を持ち、服務規律を徹底する。                                      | 昨年度より大きく改善。だが、まだ改善の余地はある。                                  | A |

### 主な目標項目と数値目標

| 項目 | 目 標          | 対 象                              | 令和2年度実績                              | 令和3年度目標                             | 令和3年度実績                             |
|----|--------------|----------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| ①  | 自宅学習時間       | 中学生                              | —                                    | 1時間35分                              | —                                   |
|    |              | 高校生                              | —                                    | 2時間40分                              | —                                   |
| ②  | 進路決定合格者数(現役) | 国公立大<br>難関私立大(早・慶・上・理)<br>GMARCH | 国公立大 63名<br>難関私大 108名<br>GMARCH 170名 | 国公立大 70名<br>難関私大 95名<br>GMARCH 140名 | 国公立大 56名<br>難関私大 81名<br>GMARCH 181名 |
|    |              | 難関国公立大学合格者                       | 7名                                   | 8名                                  | 8名                                  |
| ③  | 夏期講習参加者      | 中学生                              | —                                    | 延べ 4,000名                           | 延べ 2,991名                           |
|    |              | 高校生                              | —                                    | 延べ 8,000名                           | 延べ 8,758名                           |
| ④  | 皆勤者数         | 中学・高校学年平均                        | 平均70名                                | 平均60名                               | 平均65名                               |
| ⑤  | 説明会等参加者      | 中学校                              | —                                    | 6,500名                              | 対面・オンライン計<br>2,239件                 |
|    |              | 高校                               | —                                    | 1,600名                              | 対面 346組<br>オンライン 64件                |
| ⑥  | 一般入選倍率       | 中学校                              | 5.80倍                                | 6.0倍                                | 5.27倍                               |
|    |              | 高校                               | 1.77倍                                | 1.5倍                                | 1.71倍                               |
| ⑦  | 英語力向上        | 中学校                              | 英検準2級以上<br>92.8%                     | 英検準2級以上<br>90%                      | 英検準2級以上<br>89.0%                    |
|    |              | 高校                               | CEFR A2以上<br>高1 99.5%<br>高2 99.5%    | CEFR A2以上<br>高1 95%<br>高2 100%      | CEFR A2以上<br>高1 99.6%<br>高2 99.1%   |